

2013年4月17日

医薬経済・イノベーション評価研究会（略称：キヤノンHTA研究会）  
2013年4月17日（水）開催 第11回研究会記録

(1) Health Economics 分野における e-learning に関し、サノフィ（株）臨床開発本部の斎藤真氏が「ヨーク大学の Post Graduate Course (Distance learning) を振り返って」と題して講演。

ー以下のような内容紹介があった。

- 参加者は、企業で HTA を担当されている方がほとんど。その他、医師、経済学者（准教授）等。30 名が 4 グループに分かれ、チューターがそれぞれのグループにつき、グループ内で課題についてディスカッションを行う形式を取る。
- 応募には最終学歴の卒業証明書、推薦書、レター等が必要。
- 授業料は 30 万円／年。ワークショップ参加は第一回のガイダンス以外は必須ではない。
- 6 モジュールから構成される。2 年間のコースで Diploma が取得できるが、1 モジュールは 3 ヶ月で、200 時間の勉強時間が目安。実際はそれ以上で、22 時から 25 時位まで必要だった。
- 各モジュールの試験は、日本でも受験できる。例えば、日英人材交流センターを試験場に指定できた（一日 3 万円、試験官も付く）。
- 合格のハードルは高い。特に、統計解析のテストでは解析ソフトは使用できず、エクセルで式を書く。マルコフモデルの式をエクセルで書くのは大変であったが、理解を深めるのに役立った。100 点満点中、50 点が足切りライン。不合格になると、モジュール自体を始めからやり直さなければならない。
- Library から CRD というデータベースを経由すると、NICE の報告書等を無料でダウンロードできた。

ーヨーク大学以外の Health Economics に関する e-learning の実施状況について情報交換。

ー日本国内の e-learning の実施状況と展望について討議。

(2) QALY 懐疑論について、本年 1 月の欧州研究レポートとその反響について討議した。

- 現実社会は、QALY 利用の前提条件を満たしているか。

- ▶ 多国間調査データが QALY の前提条件を満たさなかったとの根拠を用いて QALY 使用をすべきでないとの主張に対し、QALY 利用の前提とされたデータは英国国内に限ったデータであり前提は満たされていたとの反論がなされている。
- ▶ Health metrics の利用にあたっては、満たすべき前提条件と共に、意義と限界をおさえることが不可欠である。

(記録：研究会メンバー 杉本氏)